

日時：2010年8月28日(土) 13:30～16:30

場所：大阪YMCA会館 2Fホール

地区ロータリー財団セミナーはG主催の大切なプログラムで、各クラブの会長、幹事、財団委員長を対象としたロータリー財団についての勉強会です。猛暑の最中でしたが、松本新太郎Gはもとより近藤雅臣RI理事、井上暎夫第3ゾーン学友コーディネーター、大谷透PG、岡部泰鑑GE、高島凱夫GN、地区研修委員会から神崎茂サブリーダーと木村芳樹委員、AG、AGE、小林澄子国際奉仕WCS委員長、井川孝三ロータリーの友地区代表委員など多数の指導者のご参加を頂きました。司会は池尻誠地区代表幹事が務められました。出席者数は255名でした。

松本G

「RCについてもう一度考えてみませんか」のテーマのもと、本日は「財団についてもう一度考えてみましょう」と呼びかけられました。このセミナーを通して財団への理解を深め、クラブの活動に十分役立てて欲しい。さらに私たちの立ち位置を再度認識しましょう、と説かれました。また「財団すなわち寄付集め」といった誤った考え方を捨てて、個々のロータリアンの奉仕活動への理解が深められるように努めて頂けるならば、それは自ずと寄付増進に繋がるでしょう。奉仕活動を実施するときは相手のニーズを十分に理解してプロジェクトを進めるようにしましょう、と語られました。

地区財団委員長

私はロータリー財団(TRF)の成り立ち、RIとの関連、目覚ましい発展と奉仕の歴史、財団プログラムの種類と内容、国際ロータリーとロータリー財団とロータリアンとの関係などをお話し、ポリオ撲滅のための「ロータリーの2億ドルチャレンジ」については今年8月現在1億4000万ドル以上の寄付金が寄せられていることや、世界のポリオ発症数の激減についてご説明とご協力をお願いを致しました。

1. 寄付増進プログラム部門

百済洋一財団情報・増進委員会委員長のお話は下記のような内容でした。

①地区の寄付目標

ロータリアンに対して年次寄付1人130ドル以上、ポリ

オ撲滅寄付金1人3000円以上、クラブに対して恒久基金ベネファクター毎年1人以上、ロータリー・カード会員1クラブ3名以上、地区に対して大口寄付者1人以上の目標達成の協力要請。

- ②また個々の寄付金に関する詳細な説明や冠名基金など特別な寄付についても時間を割いて解説。
- ③寄付はロータリーの奉仕活動に間接的にはあるが参加していることにはなるが、直接的参加が望ましく、有意義なプロジェクトを実施して寄付金を有効利用することを提案。
- ④ロータリー・カードの意義と入会の勧誘。
- ⑤カード入会率、当地区や日本、世界のロータリアンの寄付金額の推移など(資料配布)。

2. 人道的プログラム部門

五味千秋財団人道的補助金委員会委員長は、「人道的補助金の有効活用」と題してスライドを用い、主として下記5点について解説をされました。

- ①ロータリー財団の財源
- ②寄付金の内訳
- ③年次プログラム基金の配分(DDFとWF)
- ④マッチング・グラントの仕組みと実施手順
- ⑤地区補助金の実施手順など。

分かり易いスキームを示され、クラブ財団委員長の皆様は理解を深められたことと思います。

3. 教育的プログラム部門

(1)井上暎夫財団学友コーディネーターは、教育的プログラムは基本的かつ重要なプログラムと認識すべきこと、2007年規定審議会が「財団学友はロータリー・クラブの正会員となる資格を有する者」と定めていることをご紹介され、日本でロータリアンの高齢化が会員減少の一因となっている現在、新世代のロータリアンの育成は極めて重要であり、これについて理解を深めるよう呼びかけられました。また学友(PSCとアルムニ会)をロータリーに迎え入れることへの支援と、当地区が誇りとすべき大阪ネクストRCに対する理解を求められました。

(2)梅崎道夫財団奨学金・学友委員会委員長は、国際親善奨学生制度の歴史、応募から留学までの手続き、資格要件、奨学生募集試験合格から入学までの過程、スポンサー・クラブとホスト・クラブの役割、平和フェロー・プログラム、財団学友(PSC)活動、未来の夢計画に至るまで、配布資料提供の上明快なご説明を

されました。そして国際親善奨学生（語学力については高水準を求められる）や平和フェローの候補者推薦を要請されました。

(3)このあと折りよく帰国中のPSC西口三千恵さん（2004-05国際親善奨学生）に素晴らしいプレゼンテーションをして頂きました。西口さんは英国で国際開発マネジメント修士課程を修められ、2005年からザンビアやマラウイで活動ののち2008年1月からカンボジアの医療僻地での診療所運営に所長補佐として関わっておられます。現地は熱帯熱マラリアの蔓延地域である上、医療環境は極めて劣悪、無免許の医療行為も行われているという困窮地域です。西口さんはそこに診療所を建設するプロジェクトを立ち上げ、省エネ設計に基づく診療所建設を成功させました。当地区の（国際奉仕）WCS委員会は、現地を何度も訪れて診療所運営に必要な機材の寄贈を実施されました。西口さんはこのことにお大変感謝しておられますが、ご自身の留学前から今日に至るまで、ずっとロータリアンの熱い支援を受けて来られたことに繰り返し謝意を述べられました。感動的なプレゼンテーションでした。

4. 研究グループ交換部門

(1)2009-2010 D2660 GSE派遣チームプレゼンテーション（団長+5名）

派遣先：米国テキサス州（D5870：オースチン地区）
2010/04/23～05/21

団 長：佐藤俊一氏（大阪鶴見RC）

団 員：松永圭司氏（八尾中央RC推薦）、吉田章夫氏（大阪イブニングRC推薦）、大本尚美氏（大阪鶴見RC推薦）、品川明日香氏（大阪北RC推薦）、端山信吾氏（大阪西南RC推薦）

約40分間、現地での活動をムービーで披露しつつチームの佐藤団長初め、5人の団員一人ひとりが広いテキ

サスでの楽しくも珍しい多くの体験談を語って下さいました。チームの皆様は立派に国際親善の役割を果たしつつ、それぞれの職業に関する研修を身につけて帰って来られました。帰国後はアルムニ会に属し、財団学友としてロータリーのためにご尽力頂けるものと思います。将来ロータリアンとして活動して頂けることを期待しています。

(2)吉崎広江研究グループ交換委員会委員長

GSEとはどんなものか、その目的やしくみについてご説明されました。そして当地区の活発なGSE活動の歴史を紹介されました。1976年プログラム開始時より、当地区は22回にわたってGSEを実施してきました。そして2010-2011、2011-2012年度の2年間にわたる交換をスリランカ（D3220）と実施（今年度は受け入れ）することや、受け入れ時の委員長クラブを紹介されました。

5. セミナーの閉会に当たって

今回質疑応答の時間を10-15分間設定していましたが、ご質問はありませんでした。

セミナーを閉じるにあたり、先ず高島凱夫GNからご挨拶があり、3時間のセミナーは有意義なものであったとのご評価を頂きました。次いでRI理事、近藤雅臣PGよりご講評を頂きました。ご参加の皆様と発表者への労いの言葉と、励ましを頂きました。またPSCの西口さんのプレゼンテーションを高く評価されました。またGSEについてはご自身にとってオースチンが第2の故郷であることや、チームの団員の皆様には是非ロータリアンになって欲しいという思いを語られました。ポリオ撲滅については「ここまで来たら最後まで徹底的にやりましょう」と、全員に決意を促されました。

そして岡部泰鑑GEが閉会のご挨拶としてセミナーの意義を評価され、これからも財団への理解を深める努力を続けるようにと話されました。

